

国際学術交流委員会の発足

当学会理事会では、かねてから国際学術交流の推進について、審議をして参りましたが、昭和58年11月の常任理事会で、国際学術交流委員会を発足させる事を決定しました。この委員会の事業計画などが、下記のようにほぼ固まりましたので、会員の皆様にお知らせ致します。当委員会の計画が円滑に実施されるように、会員の皆様の御協力をお願いします。なお、皆様から助言、希望をお寄せ頂ければ幸いです。

目的：世界各国の気象学関係組織および研究者との学術交流を図る。

委員：浅井富雄，清水逸郎，関口理郎，竹内清秀，田中正之，原田 朗†，松野太郎，松本誠一**，森安茂雄，山元龍三郎*（* 委員長，** 副委員長，† 幹事）

事業内容：

- (1) 外国研究者のわが国への招へい（滞在費の補助を含む）。
- (2) 外国での国際研究集会へのわが国の研究者の参加に、旅費の補助。
- (3) わが国で開かれる国際研究集会への対応。
- (4) その他、国際学術交流の促進に役立つ事業。

事業計画：

(1) 昭和59年10月に、中国へ学会代表团（5～6名）を派遣し、昭和60年に、中国気象学会代表団の来訪を受け入れる。

(2) 1986年夏の東京での WMO 主催の数値予報シンポジウムに出席者（発展途上国）への旅費補助を検討し、可能ならば、実施。

(3) 1985年の IAMAP 総会への出席若手研究者への旅費補助。

(4) 1989年の IAMAP 総会のわが国での開催に関する対応。

(5) その他、来訪外国研究者の滞在費補助による、各支部での講演会の開催。

なお、(3) および (5) は、公募を原則とする。

資金計画：

(1) 学会の会計，(2) 一般会員からのカンパ，(3) 各種団体からの寄付（賛助会員の会費増額を含む）。

上記の資金を、主に基金とし、その利息を主な財源として、事業を実施する。ただし、中国への代表团派遣は、(3) によるように努力する。

中国気象学会との間の代表団の相互派遣について

一昨年来、岸保理事長と中国気象学会 葉篤正理事長との間で、この件について話し合いがありました。本年1月14日付の葉理事長から、1984年に当学会 代表团を中国へ招待したいとの文書が岸保理事長に届けられました。そして、5月18日付で、中国気象学会 章基嘉副理事長から、10月13～18日の Nanjing(南京)での中国気象学

会創立60周年記念式典に、日本気象学会代表团が参列する事を歓迎する旨の手紙が参りました。この招待を受け入れて、代表团を派遣すべく、当委員会では、代表团の人选（5～6名）その他の準備をすすめようとしています。

なお、中国からの代表团の訪日は来年（月日未定）に予定されています。（文責 山元）